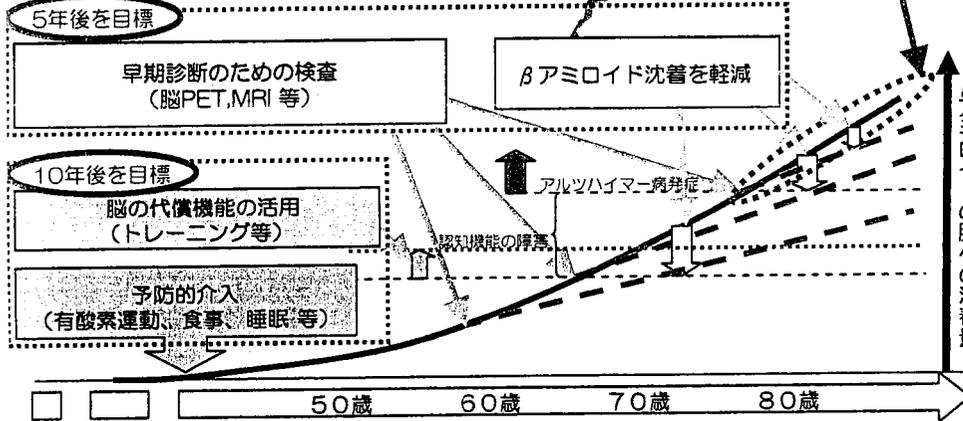


課題

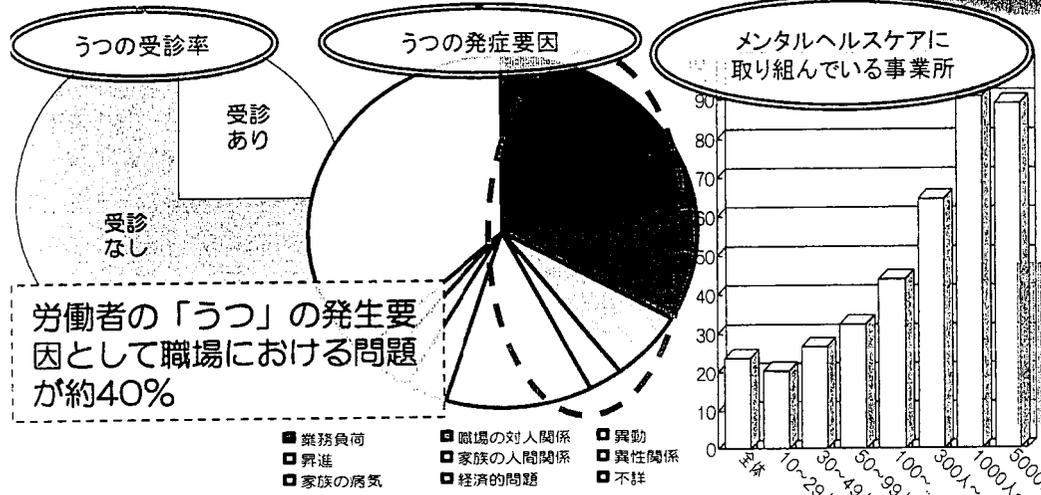
こころの健康力

目標

急速に増加するアルツハイマー病について、ステージに合わせた対策が必要



「うつ」で医療機関を受診する方は、非常に少ない



労働者の「うつ」の発生要因として職場における問題が約40%

- ☆ 症状の出現前に早期診断ができる技術の開発と実用化！
- ☆ 症状の進行に対応した医療と福祉のベストミックス！



認知症の方が安心して暮らせる地域づくりを目指します！

うつの早期発見、早期治療開始を推進します！

- ☆ うつに悩む方に対する理解の推進を図り、早期に医療機関を受診する方を増やす！

- ☆ 地域や職域での理解の促進、相談体制の整備、社会復帰プログラムの開発！

社会復帰の推進を目指します！

図表：新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

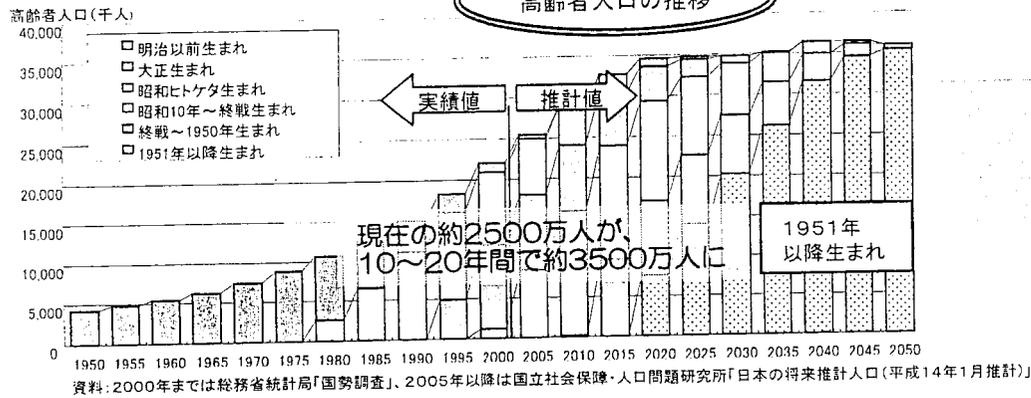
労働者健康状況調査（平成14年）

課題

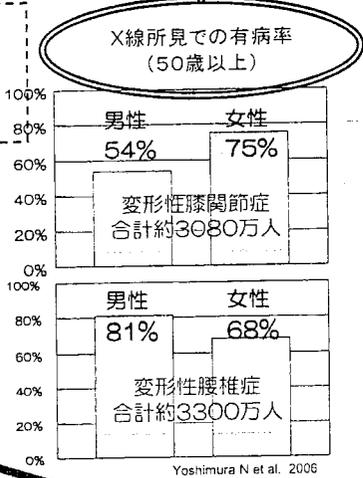
介護予防力

目標

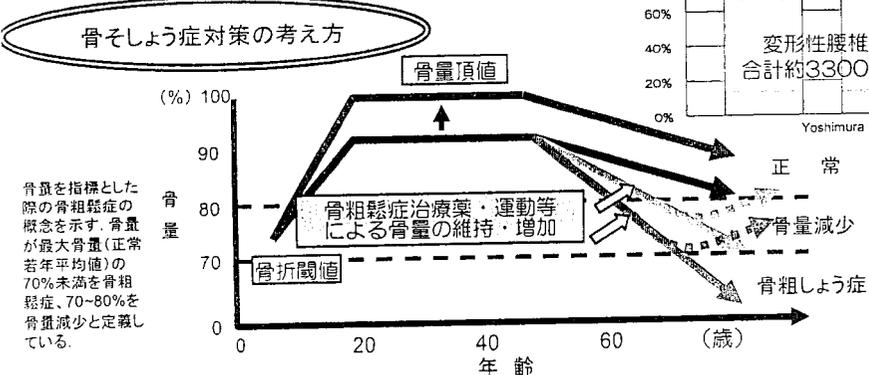
現在、超高齢社会の入り口にさしかかっています



「膝痛・腰痛で歩けない」
→ 動きたいのに、動けない・動かない
の悪循環で要介護、寝たきり高齢者が増加

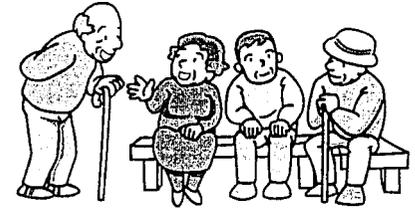


骨量が少ないと骨粗しょう症に、さらには骨折をしやすくなる。



図表：新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

☆ 地域や国民全体で「生き生き暮らそう」「お達者人生を目指す」ための、運動や食事、口腔ケア等に取り組みやすい環境づくりを推進!



「からだ」と「気持ち」の老化を防ぎ、前向きに歳を重ねることを応援します!

☆ 膝痛・腰痛の予防等の研究開発を促進し、痛みを訴える方を減らす!



膝痛や腰痛で「動かない・歩けない」の状態となることを防ぎます!

☆ 若い時期からの運動・食事等の対策を推進し、骨粗しょう症等を要因とした骨折の患者を減らす!

高齢者の骨折を減らします!

歯の健康力

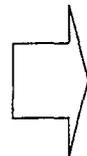
課題	幼児期	学齢期	成人期	高齢期	寝たきり者	目標	
う蝕予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭における子どもの丈夫な歯づくりに関する知識の普及と実践 ○学校での口腔に関する健康教育の実施 ○歯の生え替わりの時期における丈夫な歯と噛み合わせに関する知識の普及と予防の推奨 						12歳児の一人平均う歯数の減少
歯周疾患対策				<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦に対する予防の勧奨、乳幼児から生涯にわたる口腔に関する健康教育 ○喫煙と歯周病に関する知識の普及 ○成人期の歯周病に対する早期発見と進行抑制に関する知識の普及 		糸ようじなど歯間清掃器具を使用する人の割合の増加	
口腔ケア					<ul style="list-style-type: none"> ○噛む機能と食べる機能の維持・確保に関する知識の普及 ○寝たきり者等に関する口腔清掃知識の普及 ○高齢者の口腔内や入れ歯の状態の定期的なチェックの推奨 	80歳で20歯以上の歯を持つ人の割合の増加	
噛む機能と食べる機能を維持するための研究の推進							
食育対策との連携		生活習慣病対策との連携					
8020運動の推進							
個人が行うセルフケアの推進 <small>セルフケアと適切な口腔習慣の確立</small>							
歯科医師によるプロフェッショナルケアの推進 <small>～口腔内や入れ歯の状態の定期的なチェックなど～</small>							



食の選択力(食育)

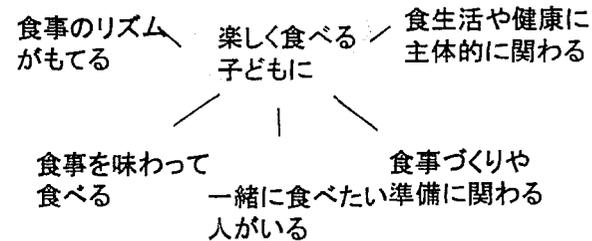
課題

- 食卓を通じた家族のふれあいの不足
- 小児期の肥満や思春期の不健康なやせ等
- 健全な食生活や食料の生産、流通等に関する知識と理解の不足



- 子どもの頃からの食育の推進
- 過度なダイエットの健康リスクに関する意識啓発
- 食に関する関心・知識の増進
- 農業体験、自然体験等の促進

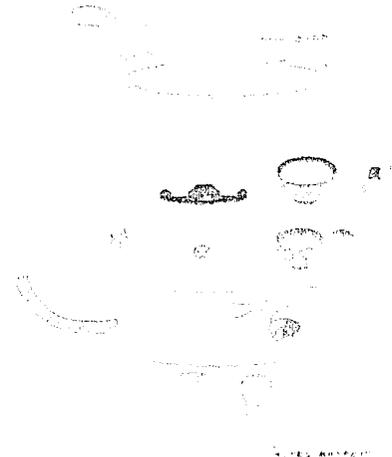
「食を通じた子どもの健全育成」の目標



国民運動の展開

(家庭、地域、学校、保育所等の連携による取組の推進)

「食事バランスガイド」



目標

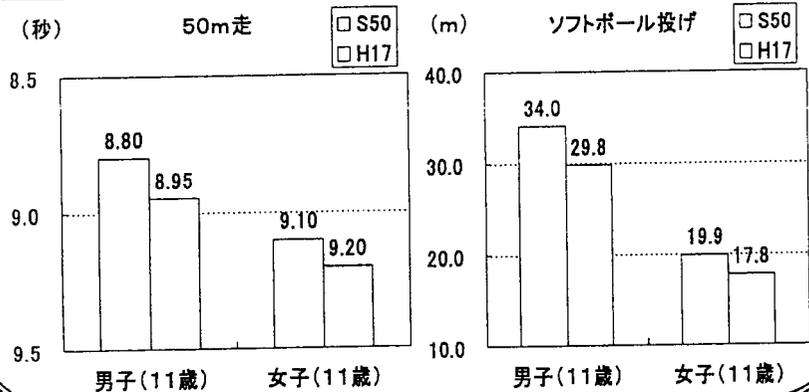
生涯にわたって健康な心と体を保ち、豊かな人間性をはぐくむ

- ・食に関する知識と食を選択できる力を身につける
- ・健やかな生活習慣を身につける
- ・食卓を通して家族がふれあう機会を拡げる

スポーツカ

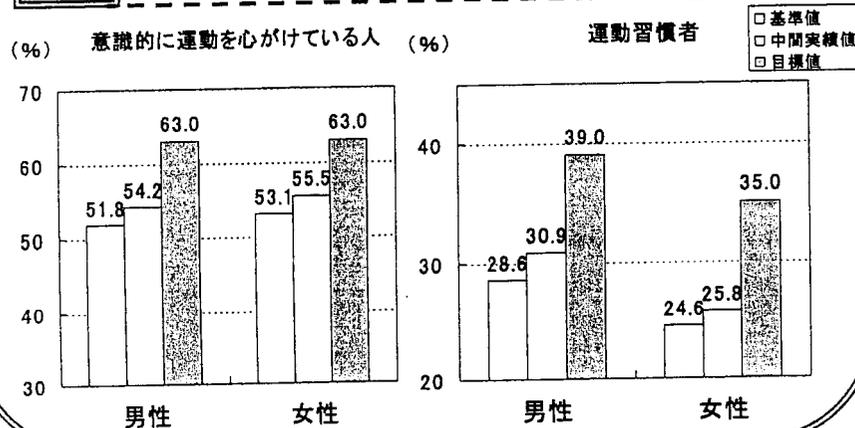
課題

体を動かす機会の減少により、あらゆる活動の源となる子どもの体力が長期的に低下傾向



課題

メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防、高齢者の介護予防のためには運動が不十分



対策

外遊びやスポーツを通じた子どもの体力の向上

- 外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲の育成
 - ・体育授業や運動部活動の充実
 - ・走る・跳ぶなどの基本動作を習得するためのプログラムづくり
 - ・子どもの体力について国民意識の一層の喚起
- 家族や地域ぐるみで身近に運動・スポーツに親しむことができる環境の整備
 - ・総合型地域スポーツクラブの全国展開
 - ・屋外運動場の芝生化・維持・管理の取組の充実 等

対策

一生涯にわたる豊かな「スポーツライフ」の実現

- 国民に対する運動・スポーツの普及・啓発
 - ・「エクササイズガイド」の普及・啓発
 - ・個々に応じた運動プログラムの提供 等
- 子どもから高齢者まで誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しむことができる環境の整備
 - ・総合型地域スポーツクラブの全国展開
 - ・運動・スポーツに親しむことができる機会の提供

目標

子どもから高齢者まで国民の誰もが、一生涯にわたって運動やスポーツに親しむことにより、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など心身の両面に渡る健康の保持・増進を図る。

家庭力・地域力

課題

・核家族化、都市化、少子化等の進展に伴う、近所付き合いや世代間のつながりを通じた
支え合いの減少
・子育てに関わる親力・家庭力の低下

子どもがすくすく育つ家庭・地域づくり

- ・子どもが安心してすごせる場の確保
- ・子どもの育ちや子育てについての理解の促進
- ・家庭で、地域で、食卓を囲み一緒に食べる意義を見直す運動
- ・家族や地域ぐるみで身近にスポーツに親しむことができる環境の整備
- ・子どもの製品等による事故情報の収集・共有・活用の推進

働き盛りによる地域活動への参画の推進

- ・地域（職域）ぐるみの健康づくり運動、メタボ対策の展開
- ・安心・身近ながん検診の普及推進
- ・地域でのうつへの理解促進と相談治療体制の整備
- ・家族が共に過ごす時間が持てるワークライフバランスの推進

地域・家庭で支える女性の安心

- ・親の健康づくりと健康知識の次世代への伝承
- ・地域でのピアカウンセリング等の手法を用いた健康教育
- ・地域での相談場所の設置

高齢者がいきいき暮らせる地域づくり

- ・住民の介護予防意識の向上、活力ある地域づくりの推進
- ・認知症対応ネットワーク
- ・認知症になっても本人や家族が安心して暮らせる地域づくり
- ・地域の介護予防活動の定着

目標

家庭の機能の強化と、地域コミュニティにおける世代間のつながりの回復を通じた健康安心の確保



人間活動領域の拡張力

高齢者

生活を楽しむ機会の減少

有病者・障害者

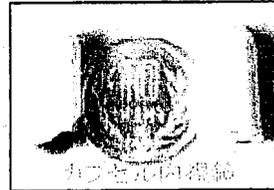
苦痛など
就業・移動・自立・コミュニケーションの制限

介護者

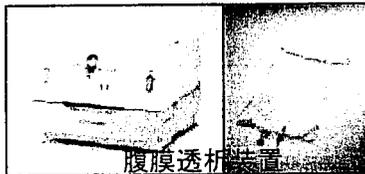
時間的、身体的拘束

高齢者等の生活を支援するロボットの普及
高齢者等が使用しやすい次世代福祉器具等の開発・普及

がん・認知症・運動器疾患予防・治療薬開発
低侵襲診断・治療器機開発



遺伝子治療・再生医療開発
疼痛緩和技術の開発・普及



パワースーツ、高度義手・義足などの開発

在宅医療用具の開発・普及

ITによる在宅医療・介護の開発・普及



感覚器代替・補助機器の開発

個人適合車いすなどの次世代福祉機器開発・普及

負担軽減効果

**高齢者
有病者
障害者**

生活を楽しむ機会の増大
健康状態の向上
苦痛の軽減
就業・移動・コミュニケーションの機会の増大
自立促進

介護者

介護が楽になり、拘束時間が減少

生活領域が広がり、経済活動全体が活性化

高齢者外出時間増

1日中ベッド上で過ごす者減

在宅療養割合増

在宅透析の割合増

在宅の看取りの割合増

障害者の外出時間増

介護・看護時間減

目標：「技術が助ける明日の生きがい」

実用化された技術を普及するための施策

普及啓発・ニーズ

- 利用者のニーズ・満足度に基づく製品評価と開発への循環
- バリアフリーなど障害者等の身体機能・生活機能支援技術のため、学問的な融合領域研究を支援。

提供体制の確保

- 適切な技術活用が可能な医療専門職や福祉専門職の育成
- 在宅での機器の使用・訓練などの技術使用の環境整備

技術評価

- 技術に対する適切な評価

研究開発力

